

姉妹都市提携10周年記念 ～バンクーバー交流の旅～

Discovery Walk Festival



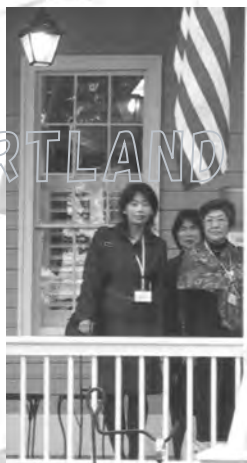
Esther Short Park

VANCOUVER

ASTORIA

Friendship Party
at Grant House

PORTLAND



Officer's Row



Red Lion Hotel

mayor's walk

Clark College

Fort Clatsop

JIEA

Pearson Air Field

★ WA
バンクーバー市

OR

CA

あいさつ

姉妹都市提携10周年を記念しての市民訪問団「バンクーバー交流の旅」の団長として、現地5泊6日の行程で草の根交流を行ってまいりました。10年間にわたる交流で育んだ友情の賜物でしょうか、当協会の山口吉男顧問、木村文子理事をはじめ参加された市民23人と事務局2人の団員と共に、多くの方々にお会いしバンクーバー市民の飾らない笑顔に出会えましたことは何よりの成果であります。

ディスカバリー・ウォーク・フェスティバル参加、市議会見学、クラーク・カレッジでの記念植樹、マクドナルドゆかりの地の見学などを通して People to People の草の根交流の推進という訪問の目的を楽しみ思い出として持ち帰ることが出来ました。これは一重にバンクーバーの市役所、市民団体、有志の方々、また城陽におきましても橋本市長をはじめとして市職員の方々のご支援、ご協力によるものと感謝いたしております。

子供文化パレードや市議会の運営などについてユニークなアプローチがなされていた事や訪問団主催のフレンドシップ・パーティーに30人以上の方々に参加いただき友情を温められました事等が大変印象に残っております。ここに参加者の感想を綴り訪問中の様々な体験・感動を少しでも感じていただけたら幸いです。

また、城陽市の最初の姉妹都市であります慶山市と異なり、バンクーバー市は大変遠くに位置し時差の関係もあり往来や連絡に難しい点もございます。そこで、私は役員会のご理解を頂き現地滞在を延長して視察・調査の機会を頂きました。その折はポラード市長様をはじめ担当職員の方の協力を得て市内の公共施設やワシントン州議会・図書館等を訪ねました。関係機関の担当者とは貴重な時間を協力して頂き青少年交流、クラーク・カレッジの生涯学習、タペストリー実行委員会などと今後の交流についての積極的な意見交換をして参りました。

今後とも姉妹都市をはじめとする草の根交流を活性化させることによって文化を学び国際理解を促進させ、協会理念でもあります恒久平和への一助となるような協会運営に取り組んで参りたいと新たに思いをめぐらす「バンクーバー交流の旅」でありました。皆様方のご協力に心から感謝致します。

2005年11月吉日

JIEA会長 工藤 香代子

目 次

あいさつ	 1
行程表・目次	 2
バンクーバー市の概略	 3
赤沢 峰子、青木 美紗子	 4
青木 龍一	 5
古川 淳、長谷川 歳治	 6
川島 豊美、木村 文子	 7
北澤 扶三代、河内 正子	 8
前田 佳子、向井 真佐子	 9
岡部 正子、沖本 康子、奥西 昭代 ...	10
佐藤 公美、澤井 敏郎	 11
田中 美代子、巽 豊	 12
轟 喬子、山岡 ヤエ	 13
山口 吉男	 14
Proclamation	 15
延長日記より	 16, 17
派遣団名簿、あとがき	 18



バンクーバー市役所前にて全員集合

＜ バンクーバー交流の旅行程 ＞

2005年4月21日～27日

- 21日(木) 結団式
 城陽市役所発
 関西空港
 ～カナダ・バンクーバー経由～
 ポートランド空港
 宿舎
 オフィサーズ・ロウ散策
 レセプション(バンクーバー市とソ
 ロプチミスト・インターナシヨナ
 ル・オブ・バンクーバー共催)
- 22日(金) DWF子供文化パレード
 DWF昼食会
 クラーク・カレッジ訪問、記念植樹
 DWF開会式、メイヤーズ・ウォーク
- 23日(土) バンクーバー砦史跡地区見学
 バンクーバー・モール
 自由行動
 ・バンクーバー・モール
 ・ファーマーズ・マーケット
 ・バンクーバー・タペストリーなど
- 24日(日) ポートランド見学
 DWF閉会式
 フレンドシップ・パーティー(協会
 主催)
- 25日(月) アストリア見学
 バンクーバー市議会見学
 文化委員会主催レセプション
 訪問団夕食会
- 26日(火) ポートランド空港発
 ～カナダ・バンクーバー経由～
- 27日(水) 関西空港着
 城陽市役所着

*DWF: ディスカバリー・ウォーク・フェスティ
 ャル(Discovery Walk Festival)の
 略

宿舎: Homewood Suites
 701 SE Columbia Shores Bld.
 Vancouver, WA98661 U. S. A.
 Tel: 1-800-225-5466

バンクーバー市の概略



バンクーバー市は「エバーグリーンステイト」の愛称をもつワシントン州の最南端、隣のオレゴン州との間を流れるコロンビア川沿いに位置します。近年はポートランドの近郊都市として発展しており人口は約15万5千人。

バンクーバーという地名は、1792年にイギリス人キャプテン・バンクーバーが太平洋岸を探検し、彼の部下が現在のバンクーバー市に上陸したことに由来しています。

1805年には当時のジェファースン合衆国大統領の命を受けたルイス&クラークの探検隊が、東海岸から初めて陸路でこの地域に達し、最も居住に適した土地であると合衆国に報告しました。

その後、19世紀には毛皮貿易の基地として、また20世紀には軍の司令部が置かれる等、北西太平洋地域の拠点として発展してきました。そのため200年に渡る歴史の名残が市内各所に見られます。

日本からポートランド空港への直行便もありますが、現在関西空港発ではバンクーバー (カナダ)、シアトル、サンフランシスコなどの都市を経由となります。ポートランド空港からバンクーバー市街地までは車で20分ほどの距離です。

「バンクーバー交流の旅」

赤澤 峰子

姉妹都市バンクーバー市の春を彩る国際的イベントに公募したものの英語も話せないので交流など不安ばかりの出発でしたが一週間を自分なりに有意義に過ごせたと思っています。

特に「子供文化パレード」で子供たちと一緒に童心に帰り大声を張り上げ行進に参加しました。その中で男子の「プラカード」に神戸の震災の写真と日本地図が書かれていたのが印象深く、なぜ、どうしても聞くことが出来なかったのが心に残りでした。ロイス・E・ポラード・バンクーバー市長さんの気配り、その上挨拶が短いけれど簡明で英語のわからない私でも何か伝わってきたように感じました。

私は「タペストリー」を作成しているところへ行き、針を持ち参加させてもらいました。ボランティアの人達の手で作り上げていると聞き驚きました。また、作品が文化パークで拝見できると聞きその日を楽しみにしています。この旅（交流）では事務局の人達の通訳のおかげでいろいろと経験させてもらい楽しい旅が出来、有難うございました。



タペストリーにプロのステッチ

「バンクーバー交流の旅」に参加して

青木 美紗子

初めて訪れたバンクーバー市は、本当に美しい街でした。

私が所属しているボーイスカウト城陽第一団では、数年前から城陽市の史蹟や銘木を巡るウォーク・ラリーを行っている事もあり、美しい街並みと史蹟を巡るディスカバリー・ウォークに参加できた事は、良い経験となりました。

そして、現地のボーイスカウトの方々が制服で参加していた私たちに気づき、声をかけて下さり、小さな交流ができました。

レセプションや交流パーティー等を含め、もっと英会話を勉強しておけば良かったと思う場面が多かったことも良い経験だと思います。

滞在中の盛り沢山のプログラムもスタッフの皆様のおかげで楽しく過ごす事ができました。同じ様に古い歴史を持つ両市の姉妹都市提携が長く続く事を願っています。



子供文化パレード Children's Cultural Parade

ディスカバリー・ウォーク・フェスティバルのオープニング・イベントです。45クラス約1,500人の地元小学生による国際色豊かなパレード。2kmの歴史や文化の豊かな地域をピアソン飛行場前からバンクーバー砦まで、団員2人もずつ各クラスに参加し児童とともに歩きました。児童たちはそれぞれ家族の出身国などについてのプラカードを吊り下げています。ヨーロッパ、アジア、太平洋諸国はもちろん中東、アフリカ、南米ノ国々等「人種のるつぼ」といわれるアメリカならではのバラエティーでした。



先頭のマーチングバンドに続いて
行進する子供たち

バンクーバー交流の旅に参加して

青木 龍一

バンクーバー市と姉妹提携して10年、過去にも何度か交流されたと思いますが、私は今回始めて参加させていただき、行く先々では、言葉はよくわからなくても笑顔で迎えて頂き、とても嬉しくまた感動いたしました。

DW開会式では、ボーイスカウトとして旗を持たせて頂いた事は、少し驚きましたが貴重な体験であり、とても嬉しい思い出となりました。また議会の様子も傍聴して、具体的な内容までわかりませんでしたが、雰囲気として、これまでのアメリカの歴史と文化から培われた姿なのかなあと感じております。

この旅で少し気になったことで「傘をさしているのは観光客！」です。バンクーバーでは、「雨も自然」しっかり受け入れているのかもしれませんが。こんな気持ちが文化や街づくりに生かされているのかなあ と考えてしまいました。とても有意義なたびでした。



ディスカバリー・ウォークとボランティア

国際的イベントとして定着したディスカバリー・ウォーク・フェスティバル。今回も世界各地から1500人を超える多くの人々が参加し、美しいバンクーバー市内のウォーキングとお互いの交流を楽しみました。

ディスカバリー・ウォーク・フェスティバルは多くのボランティアによって支えられています。その中でもボーイスカウトの役割は開会式、閉会式の旗手を務め、期間中、各コースの要所、要所で世界中



メイヤーズ・ウォークのゴールでポラード市長の歓迎を受ける



先頭旗手を務めるボーイスカウトが出発前に打合せ



ボーイスカウト同士意見交換

からの参加者への案内や救護などのお手伝いをしています。こうした活動を通じて青少年が活発に生きた国際交流に接する機会を与えています。

バンクーバー交流の旅をして

長谷川 歳治
ボーイスカウト城陽第一団

この度バンクーバー交流の旅を通じて、会長をはじめ国際交流協会の方々に大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。

バンクーバー交流の旅で感じましたことはバンクーバー市をあげての歓迎やまた各イベントを通じバンクーバー市民の方々に接待を受け大変感謝しております。

これも城陽市とバンクーバー市の市民レベルによる永年にわたる交流の賜物と思い重ねて感謝いたします。

さてこの度の旅行で残念と思いますは、ウォークラリーの内容が把握出来きず、(勉強不足のため)バンクーバー市の緑の森を歩いて散策しきれなかったことです。

また各イベントの中で、バンクーバー市民との人々との会話を(かたことで)通じもっと親睦を深めたいと思いましたが、出来なかったことが心残りです。

次回機会があれば、以上二つのことを実行したいと思います。

バンクーバー 平和と友好の旅

古川 淳

アメリカは初めての旅で、銃がらみの犯罪が多いので治安面で不安だったけど、訪問先が地方の都市だったので7日間、そんなことは全然気にならなかった。

着いてみて、やはりアメリカは土地のスペースが広いなというのが第一印象。芝生が多く清潔そうで大きな樹木も多く、これでは地球温暖化の京都議定書にも批准しないのかな。

今回の行程の中で、姉妹都市関連の儀式的な交流も相手にとって大切な仕事だっただろうけど、私は自由時間に一人でピアソン航空博物館に行こうとした時、市内でなかなかタクシーがつかまらないので街角の乾物屋で黒人のおじさんの店主が、電話帳をわざわざくっつけて呼んでくれたことが、ありがたく忘れられない印象として残っている。そういう何気ない事が面白く思い出され、やっぱり旅は止められない。

フレンドシップ・パーティー

これまで城陽市との交流に活発に関わってくださったバンクーバー市民をお招きして訪問団がオフィサーズ・ローにあるグラント・ハウスで開いた交流パーティー。フェスティバル終了直後の多忙な中、ポラード市長をはじめ30人以上が参加くださいました。両市参加者全員による自己紹介の後、訪問団は英語で童謡を披露。折り紙、子供の日にちなんだ記念品を団員全員で手渡し、今後益々の草の根交流の発展を願いました。



フレンドシップ・パーティーで自己紹介



フレンドシップ・パーティーで歓談する
橋本市長、ポラード市長、ブランチ
クラーク・カレッジ学長、工藤会長
(左から)



フレンドシップ・パーティーが行われた、オフィサーズ・ローにある、グラント・ハウスの前にて

「バンクーバー交流の旅」を終えて

川嶋 豊美

この度機会を得て、初めてアメリカの地に立ちました。さすがにすべてが大きくゆったりとしていて、もてなしの心いっぱいである事がわかりました。今まで経験した海外旅行とは、ひと味違う旅に参加でき新たな感動と新たな目標を見つけることが出来たと思います。

ディスカバリー・ウォークで雄大なコロンビア河畔を楽しみながら歩き、後半突然のものすごい風雨と稲光にあったこと、ホテルでの簡単な自炊や、数人でドキドキしながら行ったレストランでの食事、地図を片手の街歩きやショッピングに加え、一市民である私には機会のなかったパーティーやレセプション。バンクーバー市長とも親しくお目にかかる等いろいろな経験が出来ました。これも、会長はじめ事務局の方々のご尽力の賜物と心より感謝しております。

惜しむらくは、もっと英語力をつけておくべきだったと痛感しています。そしてこれがこれからの私の最大の目標となりました。いつの日かもっともっと深く国際交流が出来るようになればと思っています。

ともあれ、お世話になった皆様と、快く留守を引き受け送り出してくれた夫に感謝して、この旅の締めくくりといたします。



オフィサーズ・ロウにあるマーシャル・ハウスでのひととき。



オフィサーズ・ロウ Officer's Row

オフィサーズ・ロウとよばれるこの地区には、1850年から1906年の間に建てられた21軒の家が市の保護政策のもとに管理され、美しい状態で保存されています。ヴィクトリア洋式の建築美を見せるこれらの家はクラーク郡の出張所や郵便業務に従事した公務員の住居として建てられたものです。

バンクーバー交流の旅に参加して

木村 文子

最初に、この旅が全員無事に、元気で楽しく行って帰れたことに感謝！ ただし残念というならば天候かな？

初日のポートランド空港に降りたときは、青い空で気持ちの良い天候でした。宿へ向かうバスからの眺めも雄大で、絵本に出てくるような森と家でした。夜は十時を過ぎてもまだ薄明かりで、バンクーバーの夜空を楽しみました。私にはちょっと残念なので、午前三時頃に目を覚まして、庭に出てみました。月が出ていて、北斗七星・木星・土星を見つけ満足してもう一度眠りにつかしました。

次の日は、子ども文化パレードに参加し、子ども達の元気いっぱいの掛け声や無邪気なかわいらしさは、世界共通の宝物と実感しました。夕方からのディスカバリーウォークでは、向井さんと10Kmに参加を申し出たところ、現地ソロプチミストのジェニファーさんが気遣って一緒に歩いてくれました。いろいろお話ができ（日本語で）楽しい一時間半でした。ありがとう。ところが、そのゴールあたりからすごい雨でした。

城陽市では子ども達の人気の遊び場となっているが、さすがに重厚な雰囲気のあるバンクーバーの砦や、ポートランド、ダウントウン、アストリア見学などでは、異国の文化や歴史・習慣・風習など多くのことを、直接に肌で感じる事ができました。このことが私自身への最高のお土産となりました。

アメリカの魅力は、何といても大きいという事です。人も物も家や家具、そして木々や川の大自然も、とにかく「おおきい」と思ったのは私だけでしょうか。それにもましての素晴らしい、「おもてなしの心」でした。何処へ行っても、気取らず・飾らず・変にかしこまらずにさりげない演出で、めいっぱいの温かさを感じるレセプションには、喜びと感動を覚えました。

最後に、副団長という大役をいただきましたが、皆様方が旅なれていらっしゃることに、団長さんはじめ事務局スタッフに全てして頂き、お役に立てませんでした。そして、こんな私と同室になった川嶋さん、あなたの柔らかい心がより一層楽しい旅にしてくれました。ありがとう。



オフィサーズ・ロウを散策

「バンクーバー交流の旅」

北澤 扶三代

ポートランド到着ロビーになつかしい顔、バンクーバー・ソロプチミストのメンバーが出迎えに来て下さり、ほっと一息……。その後マーシャル・ハウスでのレセプション。私もバンクーバー・ソロプチミストのメンバーと海を越えフレンドシップを確認でき有意義に過ごす事が出来、とても楽しかった。また、「バンクーバーの旅」に参加された方々も思い思いに草の根交流をされている様子、なごやかなひと時を感じました。

今後この機会を利用され草の根交流が続く事を祈ります。



右からソロプチミスト会長ジョディ・エーカーズ氏と元会長マジョリー・エーカーズ氏



歓迎会 (Reception)

バンクーバー市とソロプチミスト・インターナショナル・バンクーバー（国際ソロプチミスト南京都と1998年6月5日にフレンドシップ・リンクを結ぶ）との共催で訪問団歓迎のレセプションに招待していただきました。オフィサーズ・ロウにある、市の迎賓館・マーシャル・ハウスでの会にはボラード市長はじめ市会議員、ソロプチミスト市の職員等参



エーカーズ会長に記念品の贈呈

バンクーバーの旅

河内 正子

まず最初に、初めから最後まで手取り足取り、親切に教えていただいた事に心より感謝します。

良かった事：

- ◎バンクーバー、ボラード市長、クラークカレッジ学長、議員の方々、ソロプチミストの方々等々の心温まる歓迎にジーンと熱くなるのを感じました。
- ◎世界各国参加のディスカバリーウォーク、子供パレードも大人も子供も言葉は通じなくても心が通じる事は素晴らしい事でした。
- ◎フレンドシップパーティも友好の絆をより密接に深めるものと感じました。

ほんとうにありがとうございました。

今後もこのような機会がありましたら、参加したいと思います。



歩き疲れて河畔で一休み

加。旧知の人も多く、早速城陽の友人等の消息を尋ねるなど市民間交流に花を咲かせました。また、初めて参加する人達も城陽の生活、文化等の意見交換を行い、草の根交流の輪を広げました。



レセプションの招待状

「バンクーバー交流の旅」に参加して

前田 佳子

普通のツアーでは体験出来ない事を、有意義に過ごさせて頂き、一週間があつという間に過ごした感じが致しました。

言葉を喋れない悲しさは有りましたが、周りの方に助けられて買い物したり、レストランで四苦八苦しながら注文したりと楽しいお勉強になりました。食事も口にあったのか全て平らげてしまい、帰国して体重計に乗り「やっぱり・・・」と。

町の緑の多さや色とりどりの花々の多さ、コロンビア川の雄大さ、街並みの美しさ等に驚き感動しながら、バンクーバー市長の気さくで精力的な仕事振りに驚かされの毎日でした。

日用製品には日本と同じく、中国製や東南アジア製が多く有りました。一般市民の生活習慣は見て取れませんでした。文化の違い等がかいまみられ、心に残る旅になりました。



コロンビア川の河口の街、アストリアにて

「バンクーバー交流の旅」

向井 真佐子

私は10年前にもバンクーバー市を訪れ、今回で2度目です。

初めてディスカバリーウォークに参加して、市内を歩くと、変わったなあと感じたり、かわらないなあと懐かしく思えたり…出会う風景、一つ一つに興奮してしまう。

大きい木々、ゆったりと流れる川、柔らかい芝生…雄大な自然。通り過ぎるたび、「ハロー」と気さくに声をかけてくれる人たち。見知らぬ同士でも仲良くなれて、10Kmの距離を楽しく歩けた。

滞在中温かい歓迎を受け、「バンクーバー市に来たのは2度目だ。」と話すと、「おかえり」と言ってくれた。「子供の名前と同じだから、とても親しみを感じる。」とやさしく接してくれたご夫婦、「日本に住んでいたことがある」、「城陽市に行ったことがある」、と話す人たちと、とても楽しい時間を過ごした。

また、機会があれば参加したいと思った。



フォート・クラッツオップにて



バンクーバー砦

Fort Vancouver

1825年に毛皮貿易等を行っていた英国のハドソン・ベイ・カンパニーの砦として建設されました。1834年には鳥羽から出航して遭難、日本人として始めてアメリカ太平洋岸に漂着した、岩吉、久吉、音吉の三人を保護しました。砦の名前は英国の冒険家キャプテン・バンクーバーにちなみ、現在では砦の内部が当時のままに再建されています。城陽市鴻ノ巣山運動公園に砦のレプリカがあります。



バンクーバー砦公園にある城陽市のバンクーバー砦のレプリカのレプリカ

バンクーバーの旅

沖本 康子

城陽市国際交流協会バンクーバーの旅に、参加させて頂いて、話して知る事の大切さを感じました。

今日本で建築材木の、需要の多い米国松を身近に見られたのも幸いです。

これからは、若い方達も、どんどん海外へ行き、良い所を沢山学び、長い人生を、充実したものに、していただきたいと思います。

結びに当たりまして、バンクーバー交流の旅に、お世話くださいました皆様方に、お礼申し上げます。

ありがとうございました。



フォート・クラッツOPPの森で

感想文

岡部 正子

私はどっちかと言えば、都会派なので今回の旅は田舎のイメージが強く自分からは決して申し込まなかったであろうと思います。

ところがご縁があっておすすめ頂いたお方のおかげですばらしい旅を味わわせていただきました。

本当にありがとうございました。

雄大な自然と大変だらかな心の人たちに温かく迎えて頂いた事は一生私の心に残ることでしょう。

あのような大自然の中でだらかな人に囲まれてのびのび育つ子をうらやましく思います。

市長も議員も無給で市民一体になって働いておられるそうです。

木を切ってはいけない、家の庭の木でさえ沢山切り落とすときには、市に報告して許可をもらわなければならない、何と自然にやさしい暮らしなのでしょう。

城陽とどこが姉妹都市なのかと思ってしまいました。

帰国すると家の垣根が新緑で勢いよく伸び道にふくれ出ています。枯葉が隣の家に落ちるので、とても気を使いながら皆さん暮らしておられます。

木も人もすき間を見つけて気を使いながら生きなければなりません。

どうしようもない事は仕方がないけれど、狭すぎる道が何本あっても人々の暮らしは豊かになりません。

城陽の市議会に無給でも働きたいという方が一人でもいらっしやることを信じています。



クラーク・カレッジでの植樹

バンクーバー交流の旅に参加して

奥西 昭代

ロイス・E・ボラード市長を先頭に約千五百名の各国子供達の「子供文化パレード」を一緒に行進し色彩豊かな民族衣装そして子供たちの笑顔で、旅の疲れも吹き飛んでしまいました。

タペストリーも少しですけどお手伝いすることが出来、大変嬉しく思っております。

いつか、文化パーク城陽に来る日を楽しみにしています。

バンクーバー岩の鍛冶屋さんでは、童謡の「村のかじや」を思い出して小学生の頃を懐かしく思いました。

議会見学ではボラード市長、市議員、市民との間隔のないのに民主主義を感じました。

工藤会長、藤本さん、大久保さんには大変お世話にもなり又いろいろとご迷惑をおかけした事と思います。これにこりすまた一緒に連れて行ってくださいね。



朝の空気の中で

「バンクーバー交流の旅」

佐藤 公美

姉妹都市提携10周年記念バンクーバー交流の旅は見渡す限り手入れの行き届いた木や花が美しい季節の中素晴らしい旅でした。

市長さん始めソロプチミスト、クラークカレッジの方々等バンクーバーの人々の温かく打ち解けた歓迎を受けました。

ディスカバリーウォークでは私は5Kmの道程を往きは雄大なコロンビア川を見ながら帰りは左手に鉄道とハイウェイ、右手に街並みに沿って気持ちよく歩きました。途中ほんの一時強い突風と雨に驚きました。

子供のパレードでは先生一人と父兄二人と高校生に先導され各々自分で作成した独自のカードを下げた小三のグループと歩きました。生徒たちのきちんとした統制がとれて整列しながらも自由で明るい雰囲気を感じました。

モックフォードさんや谷田部さんの親切なご案内で三吉たちの碑やバンクーバー砦、マクドナルド生誕地アストリアなど、行く先々で今までお話を聞いていたことを確かめられ、うれしく思いました。

クラークカレッジでは以前に植樹された木の成長を確かめ、又今回市の木「梅」が二本植えられました。いつか大きく成長し花が咲くのを見られることを願っています。

議会でも紹介され、温かく迎えられたことを再確認しました。議会と市民の距離がとても近いものに感じられました。

最後になりましたが会長初め事務局の周到な準備やご尽力に感謝いたします。そして御一緒にお友達になった皆様ありがとうございました。



初日のレセプションで歓談の様子

フォート・バンクーバーの空は素晴らしく青かった

澤井 敏郎 (NGO緑の協力澤井隊代表)

1966年、1986年、そして今回2006年、丁度20年毎、3度目のワシントン州、オレゴン州の訪問だった。

到着翌日の子供文化パレードは最近の日本では見られない澄み切った青空の日だった。

小学2～3年生1,500人による世界各国のお好み衣装に、その国の国旗や特徴をクレヨンで手書きした大画用紙を首にかけて皆で進行。お金をかけずにアイデアで楽しく国際的な勉強ができる。城陽の小学校でも真似て実行してほしい。

公園や市街地の様子は、昔以上に映え育ち、手入れの行き届いた山河、清楚でまるまる太って威風堂々愛嬌のある女性たち。明るくて心豊かな国民性を感じた。

日本のダイエット娘は病的で異常に感じる。ダイエットを漢字で書くと「死越人」だ。

アメリカは体制が違うとはいえ、合理的な市議会の構成と運営は参考にすべきだ。人口16万人の市議会議員はたったの7人。議員はそれぞれ本職をもっているので市議会は夕方6時から開かれる。市人口減少化のわが8万人都市では、職業議員が24人（定員）。収縮をはじめた日本の人口。民間企業はその対策対応にピッチを上げている。税収減の当市も真剣に先手検討すべきだ。姉妹都市としてよき手本にしてほしい。

11月の文パル開設10周年にはポラード市長ほか議員等達が自費で来陽されると聞いた。今回の私費交流団とは別に、公費で市長、議長、秘書課長が交流された。何を学び、どんな改革を実現されるのか。結果を見守りたい。

ところで、最近の日本の空は「黄砂」と「微細浮遊ゴミ」のベールに覆われ薄汚れた「青空」である。帰途、北海道上空8千米の機上から、斜めの雲上に汚れたエアゾル層がたなびいているのを見て愕然とした。中国での健康被害は深刻で暫く来春から、日中韓蒙4カ国で黄砂の調査と観測が始まるが遅きに失する位だ。

これからの日本の環境と行政問題の将来を考えさせられた有意義な交流の旅だった。

事務局、ご苦労様でした。（2005.5.5記）



宿舎のホテルのロビーにて

バンクーバーの旅の感想

田中 美代子

国際交流バンクーバーの旅に参加させていただき、現地の広大な土地、新緑、深緑りの木立その広さに圧倒されました。時間も人もゆっくり流れているようでした。また、コロンビア川に沿って景色を見ながらウォークで来たことも大変楽しかったです。国際ソロプチミスト（ボランティア）と色々な事に取り組んでおられることも知り現地の方々ともお会いできて有意義な体験をさせていただき有難うございました。

私自身まだまだ勉強不足ですがこれを機にもう少しがんばりたいと思っています。



歴史上の人物の名前がついた建造物をウォッチング

ネイティブ・アメリカンの儀式 Chief Redheart Memorial

1877年の戦いでネズパース族の酋長レッドハートが捕まり1年後に釈放されたことを記念してバンクーバーで行われています。アイダホから子孫がバンクーバーまで伝統的な旅をしてこの行事に参加します。



ネイティブ・アメリカンの儀式のパンフレット

「バンクーバー交流の旅」

巽 豊

4月21日正午すぎ、「バンクーバー交流の旅」26名一行は、城陽市役所を出発した。

関空でカナダ行きの飛行機に乗った。時差の関係で、カナダ到着後また一日が始まった感じだった。初日は、長時間の機内で過ごしたこともあって、マーシャルハウス見学だけにとどまった。2日目から本格的な事業が予定されていた。子供パレードは2Km程度のウォーキング。記念植樹。夕方から10Kmのウォーキングに参加した。日頃、ウォーキングに興味を持ち、自宅で植木をながめ管理しているので、植樹もよい記念になった。

一番の心に残ったことは、本物のバンクーバーのとりでを見ることができた。

3日目のワシントン州立聴覚障害者学校の空き部屋で作成されていた、タペストリー見学では刺繍もおもしろそうだった。用意された針と糸で少しやってみた。

4日目は、ポートランド見学、ウォーキング閉会式で、橋本市長も閉会式に参加していた。バンクーバー市長からバッチを背広の襟に付けられた橋本市長は、照れ屋なのが無表情であった。演説では「心から・・・」と言いながら、もっと友好関係を表現すべきだ。

ポートランドでは、裸婦像があり、すばらしかった。工藤会長も絶賛された。

5日目は、アストリアへ行き、憧れのアメリカ西海岸をこの目で見た。コロンビア川も雄大であった。今回のバンクーバーの旅は公式行事参加と、個人的に帽子とTシャツを買うのも目的であった。日本で帽子をかぶってウォーキングすることを楽しみにしています。鴻巣運動公園に行けば、バンクーバーへ行ったことを実感するだろう。

城陽市の姉妹都市、慶山市（平成8年訪問）とバンクーバー市を訪問することができてよかったと思います。



お父さん達も針をもってがんばりました！

バンクーバー交流の旅

轟 喬子

始めに、お礼を申し上げます。

工藤会長様を始め皆さんの濃やかなお心遣いのバンクーバー交流の旅を体験させて頂き本当にありがとうございました。

百聞は一見にしかずの通りでした。

あの広大な緑の大地、山それを見ることが出来ただけでもこの旅に参加した価値がありました。

バンクーバーの市長さんを始め、大勢の異国の人々にお会いでき、少しでも話が出来、楽しかったのですが、もっと英語が話せたらとちょっぴりくやしく思いました。

個人的に出来ない体験をたくさんさせて頂き、有意義なバンクーバー交流の旅でした。



ディスカバリー・ウォーク・フェスティバルにエントリーの様子

タペストリーを前にバンクーバーの歴史談



バンクーバー市議会



市議会は月曜の夜に開かれます。14万人都市の議会の定員は市長兼議長1人、議員6人で構成されており、議席は全員が市民と向かい合うように着席します。

議会のあとに開かれたレセプション
全員立席で気軽に談笑



バンクーバー交流の旅に参加して

山岡 ヤエ

バンクーバー交流の旅に参加し、普段では経験できない事を体験しよい思い出を作ることが出来ました。

特に印象深かったのが、子供文化パレードです。海外からの参加国に交わっての行進、開会式への参加です。日本では見られない民俗衣装、大規模な人数の参加に最初驚きましたが、先頭の鼓笛隊に続いての色鮮やかな民俗衣装での行進には目を見張られました。一番感心したのは日本の子供と海外の子供の違いです。この日は気温も高く暑かったのですが、だらける事無くまじめに参加していたことです。規律のある教育又親の教育が作り出しているのかなと感じました。そんな子供と共にパレードに参加したことは本当に良い経験をさせていただいたと思います。お世話をしてくださった藤本さんと大久保さんはじめいろいろな方に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

姉妹都市提携10周年記念「バンクーバー交流の旅」に参加して

山口 吉男

私は10年前の友好訪問は当時の石田実市議会議長を団長に、可畑副議長、西村満総務経済委員長、内田茂議会運営委員長、大野木敏夫市助役、森田恒孝議会事務局長、水野幸一秘書広報課長と、ロータリークラブより梅村泰一前会長、蔭山淳相談役、国際交流協会は奥田敏晴副会長と私が会長で副団長とあわせて11名に旅行社より東急観光の藤原氏と通訳の人が1名行かれた様に思いますが、行政主導型の感じが強かったが、今回の友好訪問は、協会が立案一般市民より募集して総数26名の多数参加となりました。工藤会長及び、藤本、大久保事務局には大変お世話になりましたが、真の草の根交流が協会の力で出来たと感謝しています。異なった言葉や生活文化を持った人々とふれあいを理解し、日本の歴史を振り返り、海外の異なる考えや、優れた政治文化経済を取入れて、城陽市と国際交流協会が益々発展していくように、念願しています。



フレンドシップ・パーティーでの笑顔

フォート・クラッツOPP Fort Clatsop



砦の入口
中に入ると左右に7つの部屋がある



森の中に200年間佇む砦

ジェファースン大統領の「太平洋岸への陸路探索」という命を受けたルイス&クラークが率いる探検隊は19ヶ月、6,000キロ以上の旅の末、西太平洋岸に到達しました。越冬地である砦の建設のための材木と薪の調達、また安全の確保のため、うっそうとした森の中を選び、1805年12月から約4ヶ月（106日）間この砦に滞在しました。砦の名前は友好的だった地元のネイティブ・アメリカンの名前にちなんで名づけられました。一行は地元民との交易や狩をして食料を調達し無事越冬し翌春帰路に着きました。現在も砦は見上げる木々に囲まれており、この地域をはじめとしてオレゴン州は米国松有数の産地です。



当日ボランティアでご協力いただいたクラッツOPP・カントリー歴史協会のバーンズ氏と米国マクドナルド友の会谷田部氏から説明を受ける

2005年4月25日にバンクーバー市議会訪問の際、バンクーバー市長から協会のこれまでの交流活動に対する評価を記した声明文をいただきました。



ポラード市長から声明文を受け取る工藤会長



授与された声明文

Proclamation (声明文)

ここに、城陽市国際交流協会は城陽市民に対する国際交流と理解の促進について顕著な役割を果たしている、また

ここに、国際理解とは他国の言語、生活様式、文化の理解を意味し、有意義な交流の重要なポイントである、また

ここに、城陽市国際交流協会は1993年7月に設立され人と人をつなぐ草の根交流を促進している、また

ここに、城陽市国際交流協会は一般の市民に他国の市民との直接のコミュニケーションの機会を提供し、それらの人々に対する理解を促進するために設立された、また

ここに、種々の国際交流事業の一つとして、工藤香代子会長を代表とする城陽市国際交流協会はバンクーバーにおいて2005年4月22～24日の期間開催された第9回国際ディスカバリー・ウォーク・フェスティバルに26人の市民と

ともに参加した、また

ここに、城陽市国際交流協会は1995年城陽市とバンクーバー市との姉妹都市を提携するにあたり尽力し、バンクーバー市はその10周年を祝します。

今、それ故に、私、ロイス・E・ポラード、アメリカのバンクーバー市長は、城陽市国際交流協会が我々2都市間の対話と理解の促進に果たしている重要な役割を評価し、この協働が継続されることを希望し、バンクーバー市民にこのような特別な認識を持つことを奨励します。

立会の下に2005年4月25日署名し市章を捺印します。

〔署名〕

ロイス・ポラード、市長

延長日記より

期間：2005年4月26日～29日

この度の訪問を機に国際交流協会として姉妹都市10周年を迎えた、バンクーバー市とのこれからの国際交流のあり方について検討し、国際化時代に適切に対応する方途を研究させて頂くという目的で滞在させていただきました。先ず感じましたことは、まさしく地域レベルの交流は People to People, Region to Region の住民同士の交流として国際社会に柔軟に対応でき、その感激も大きいこと。また異文化の交流によって地域の産業や経済を刺激し、住民の認識と理解を促し、地域を活性化する契機となるという点であります。従って究極の目的は国際的な相互理解の促進と相互利益の追求であって、それらを通じて世界平和に貢献することであろうとの感を深めました。貴重なページを頂き滞在延長時の一部をお知らせいたします。



大切に保管・展示されている
城陽市からの記念品

市長室で訪問団員の感謝の意を代表して述べさせて頂いた際のポラード市長の返礼の辞：「26人もの城陽市民をディスカバリーウォークに連れてきてくださり、今までで一番すばらしい華やかな大会となったことに感謝申し上げます。10年間すばらしい姉妹都市交流を行うことができたと思っているが、今後とも市民間の草の根交流を活発に行い、お互いの文化・習慣等の相互理解を益々推進したいので、これからも協力をお願いしたい。」



リアン・ジョンソン氏（文化担当者、文化委員会調整者）とはバンクーバー歴史タペストリーの完成後及び今後の児童絵画交流について話を聞き、タペストリーが城陽市でも何時の日か展示できること、また、今まで続けてきた児童絵画交流も益々活発に続けたく、更に子供達だけではなく大人のアート交流についても意見交換。今後両市間で多種多様な芸術・スポーツ等の交流を進めることで確認。

（写真左下）



コリーン・カワハラ氏（右：シティーマネージャー室特別事業調整者、姉妹都市交流担当）とペギー・ファーマル氏（左：市長秘書）

クラークカレッジにて

副学長他3人の教授に面会し、学校の組織、青少年派遣、生涯学習等について意見交換

アメリカには語学学校、コミュニティカレッジ、4年制大学、大学院等様々な教育機関がある。大学等で学ぶ学生の年齢層も幅広く、アメリカ高等教育の奥の深さを感じる。クラークカレッジはワシントン州から5人の委員が選出されて運営に当たるコミュニティ・カレッジ。1933年に設立。アメリカでは、進学先を選択する際日本のように学校の知名度だけでは選ばず、自分が選考したいと思う分野で優れた学校を選んでいる。専攻したい分野が決まっていなかった場合は幅広い専攻分野を有するコミュニティ・カレッジや4年制大学で様々な授業を受講する。クラークカレッジの特徴はウエブスタークラスや幼児教育クラス等、専門分野での終了証書を取得できる。大学編入可能な準学士号を取得し、4年生大学への3年生として編入可能。企業でインターンとし働いて単位を取得できる等。城陽市との交流分野で教員の交換や生涯教育として55歳以上の留学生交換などを希望された。

国際学部担当リンダ・ニシダ氏、事務局ユキ・ホンダ氏に面会し今までの城陽市からの留学生に対する支援に謝辞。

クラーク郡歴史博物館

バンクーバー市より学芸員の紹介を頂き、説明、案内を受ける。1940年代にアンドリュース・カーネギー氏（ニューヨーク・カーネギーホール設立者）の寄付で建設。カーネギー氏は全米内に3,000以上の図書館を設立している。1964年まではライブラリーであったがその後に歴史博物館になる。1階は蒸気船時代の紹介。1880年代の民芸作品などを展示。地下は大陸横断鉄道の発展を紹介。東海岸から西海岸シアトルまで来た鉄道がポートランドまで来る事により、バンクーバーも栄えていった。当博物館では1921年から館正面に植えてあるアメリカンエレムの木と米国で一番古いといわれているリンゴの木（1826年にイギリスより5つの種が持ってこられ発芽したが、1894年の洪水で4本は流されたが1本は現在もコロンビア川のほとりにあり健在）を管理している。コロンビア川のリンゴの木は大変古い樹齢の為、現在博物館の後庭にその挿し木をして後世に残そうとしている。



ワシントン州庁

ワシントン州の最大都市はシアトル。人口は約589万人面積は日本の総面積の約47%。主要産業はハイテク、木材製品、建材、輸入住宅、農産物全般、日本企業数は約200社以上。姉妹県は兵庫県。姉妹都市は30都市以上。（城陽市はバンクーバー市、神戸市がシアトルなど）ワシントン州庁はオリンピア市にあり1920年に議事堂が建設されたが、5年前の地震で一部修理された。説明を頂いた中での議会の特徴は議長職や事務処理は全て副知事で行う。バンクーバー市の選出地区は2つに跨っており、選出された地区の諸課題を提案している。議員は任期中に14～16歳の高校生を8人まで報酬付きで事務秘書役に選任できる。彼らは議場で議員の手伝いを行える。また専門委員会では市民の公聴席が設けられ、意見ある市民は議員席の前に設置された席上で委員と応答ができ、委員は市民の意見を收拾して本会議にかけられる。議事堂は本会議が行われる議場と公聴席を含め当時のままに保存され一

般に公開されている。1階にはアメリカ議会政治の歴史展示場があり、市民はいつでも、誰でも自由に見学できる。この日もスクールバス5台ぐらいで小学生が見学に来ていた。日本語の案内ガイド（日本からの留学生）もいる。



49地区（バンクーバー市）選出のクレグ・ブレディモア議員の秘書アリスン・ミイエルケ氏より、州の行政等の説明を受け、州庁内視察。

ベルビュー地方図書館（BRL）

BELLEVUE REGIONAL LIBRARY

ワシントン州の図書館ネットワークシステムは全米第2の規模を誇り、45の図書館で構成されている中BRLは最大規模の図書館である。1993年に2400ドル（約25億円）のコストで設立された。約2,000坪の広大な床面積を有する、立派な建物の中に135名のスタッフ（パートも含む）が働いている。その内30名は図書専門大学を卒業しており、70名は現在専門大学で学んでいる。図書（本、レコード、カセット、ビデオ、CD、DVD）の数は、70万を越える。視聴設備や機器も充実している。土日も開館しており、1人100冊まで28日間借りられる。28日を過ぎれば1冊につき10セント（約10円）の使用料が要る。各図書館はオンラインで繋がっており利用者は便利にアクセスできる。BRLは図書館機能のみならず情報サービスが集積した情報センターとしての機能を果たしている。幼児コーナーで、パソコンゲームなどに興じている子供の側で若いママが一心に編み物をしている姿が印象的でした。

タペストリーのできるまで

ロバート実行委員長、シャーリー製作委員長談

市の事業ではなく、地域の人達によって自発的に発生し、それに賛同した市長、市が援助をする。6年の歳月を費やしてバンクーバー市の200年の歴史をボランティアの人達によって、一針、一針刺繍して製作。2005年の6月に完成。71センチの高さで33メートルの長さで約10万時間を費やした。展示時に破損したり、汚れたりしないように、出来事や人物、その時々風景など70のパネルに収められる。寄付はお金だけではなく、糸であったり、布であったりもした。製作はボランティアのみで飛び入りのボランティアも関わる。

2006年の9月までの1年間はクラーク・カレッジに展示し、今年11月のルイスとクラーク200年記念事業に使用され、その後もいろんなイベントに使われる予定でその後、ワシントンDC（政府）オリンピア（州庁）でも展示を予定しており、最終的には城陽市でも展示したい意向。



訪問団帰国後に完成されたタペストリーのクラーク・カレッジでの展示を報じる新聞

「バンクーバー交流の旅」訪問団名簿

氏 名	備 考
工藤 香代子	団長、協会会長
山口 吉男	副団長、協会顧問
木村 文子	副団長、協会理事
赤沢 峰子	協会会員
青木 美紗子	協会会員
青木 龍一	〃
古川 淳	〃
長谷川 歳治	〃
川島 豊美	〃
北澤 扶三代	〃
河内 正子	〃
工藤 和成	〃
前田 佳子	〃
向井 真佐子	〃
岡部 正子	〃
沖本 康子	〃
奥西 昭代	〃
小野 福子	〃
佐藤 公美	〃
澤井 敏郎	〃
田中 美代子	〃
巽 豊	〃
轟 喬子	〃
山岡 ヤエ	〃
藤本 知枝	協会職員
大久保 雅由	〃

（協会会員の氏名はアルファベット順）

あとがき

2005年度の事業として計画されてから実施まで1年半以上、安全で市民が参加しやすい訪問をという役員会の指示のもと様々な下調べと検討を行ってきました。姉妹都市との草の根交流の推進、普段着のバンクーバー市の姿、マクドナルドや音吉たちを通しての日米の歴史、クラーク・カレッジの見学そしてディスカバリー・ウォーク・フェスティバルへの参加と欲張った日程を実施できたのも姉妹都市提携10周年という年月と両市の友情の賜物です。バンクーバー市役所をはじめこれまでの交流に様々な縁のあった方々、また現地に滞在していた城陽市民の協力があってこそその快適で有意義な旅となりました。参加者の皆様のご協力で無事7日間の旅を終えて、大きな成果と共に今後の交流への礎石にもなってくれることを願っております。

JIEA事務局 大久保 雅由、藤本 知枝

